

「新年にあたり」

支部長 飯嶋 俊比古

1. はじめに

新年明けましておめでとうございます。今年は、新検証法による構造設計も本格的に始まることもあり、

JSCA中部支部の存在意義も大いに高まることが期待されます。しかしながら、支部会員の技量の向上、社会的地位の向上等は、会員であるだけでは実現する筈ありません。支部は会員のみで構成されていますので、支部活性化のためには会員の支部への参加が不可欠です。全員が何らかの活動をしてくださることが望まれます。これには、支部開催行事への参加も当然含まれます。支部の活性化に向けて、現状報告やお願いなどを取り混ぜて述べることに致します。

2. 何が問題か？

支部運営で2つの問題について考えます。1つは負担、もう1つは費用です。支部運営は、ギブ・アンド・テイクが原則です。ギブ・アンド・ギブ、テイク・アンド・テイクでは支部は成り立ちません。支部運営が会員の一部によってのみなされることは、皆同じ会員であるにもかかわらず、負担の点で平等に欠けます。全ての会員が少しづつ能力又は時間をギブし、それらを集めて大きな成果をテイクすることが理想です。現状では、まだ理想に遠い状況でこれが問題の1つです。支部活動を活発にするためには、何かと費用がかかります。この費用をどのように捻出するかが問題です。現実的な方法は、講演会、講習会等の行事で参加者に若干のご負担を頂くことです。この点は、是非ご理解をお願い致します。

3. (仮称)若手部会

支部の活性化は、若手の参加に他なりません。それが実現されなければ会員の高齢化が進み沈滞してしまいます。この状況を踏まえ、(仮称)若手部会を設立し参加しやすい環境を整え、若手の参加を促しています。若手とは30歳代を想定していますが、これは厳密ではありませんし、厳密である必要もありません。30歳代は若手というよりは、現業のトップであり、一番忙しい人達でもあります。この人達の積極的な参加こそが支部活性化の鍵を握っていると言って言い過ぎではないでしょう。是非、30歳代に限らず、皆様の今まで以上の積極的な参加をお願い致します。

4. 情報の公開

支部活動が閉鎖的にならない様、情報公開に努めています。具体的にはホームページに各委員会、部会の議事録等を掲載することです。現状では必ずしもうまく機能している訳ではありませんが、これ以外に良い方法が見あたりませんので、当面はホームページの充実に力を注ぎたいと考えています。インターネットの双方向性を活かすことが出来ればホームページは支部活動の大きなツールになる筈です。

5. 事務局作業の軽減

支部事務局には、専用の事務所もありませんし、専業の職員もおりません。事務局担当者とその所員に、もっぱらお世話になっております。全て、ボランティアです。事務局には、会員内外からの問い合わせ、連絡、総会、講習会をはじめ各種行事への対応、会計業務等々、大変な作業量をこなして頂いております。

このような状況を会員の皆様にご理解頂き、事務局の事務作業量軽減にご協力頂きたい。具体的には、事務局でなければ出来ない作業がありますので、それらについては従来通り事務局にお願いします。必ずしも事務局でなくてもよい事柄については、各会員に薄く広く負担して頂く。作業そのものの合理化、省力化としては、E-Mail と Home Page の活用が考えられます。例えば、募集・応募を Home Page で行えば、出席者名簿が自動的に出来るであるとか、文書は E-Mail で配布する等です。順次、会員にお願いして参りますのでその節はよろしくご協力ください。

6. これから

「JSCAに入ったら何かメリットがありますか？」と聞かれたときには、私は「無い」と答えております。入っただけではメリットは無い。参加してメリットを見出し、メリットになるのだと考えております。ですから、より多くの会員に参加いただき、メリットが新たなメリットを生み出す支部に致しましょう。どう参加したらよいか判らなければ、私でも事務局でも問い合わせください。参加する場所が無いと考えておられるのであれば、場所を作りましょう。全員参加の活性化された支部活動を実現することは、難しいことではありません。会員の皆様がそう思い、実行するだけで、すぐに実現できます。

NTT DoCoMo 東海 名古屋ビル(仮称)

㈱NTTファシリティーズ 齊藤 賢二
二宮 利文

1. はじめに

この建物は、デジタル時代の都市コミュニケーションの基盤創りを先導し、新世紀に相応しい高い信頼性を追求した情報通信ビルである。建物規模は地上22階、地下2階、塔屋2階であり、建物上には2層のハットトラスを介して高さ約65mの通信用鉄塔を搭載している。この建物では情報通信サービスのより一層の信頼性確保のため、制震構造を採用している。

2. 建築概要

建築場所：名古屋市東区泉1丁目1305他
用途：情報通信用建物
建築面積：1,170.36㎡
延べ面積：25,070.87㎡
建物高さ：101.55m(鉄塔頂部165.15m)
設計・監理：(株)NTTファシリティーズ
施工者：鹿島建設・フジタ・共立建設・
不動建設・矢作建設工業JV

3. 構造計画概要

建物の地上階は32.0m×35.2mの矩形平面の北東隅を一部欠き込んだ形状で構成され、コアは北側に集約する形で配置されている。構造形式はハットトラス層を除き、全層鉄骨造の純ラーメン構造であり、オイルダンパー制震装置をバランス良く配置して地震荷重および風荷重の低減を図っている。また、鉄塔からの反力を効率よく建物に伝達するため、屋上に十分な剛性をもたせたハットトラス層を設けている。

地下階は地上部分を包含する平面の北側に地下駐車場を接続した形状であり、鉄骨鉄筋コンクリート造の耐震壁付きラーメン構造としている。

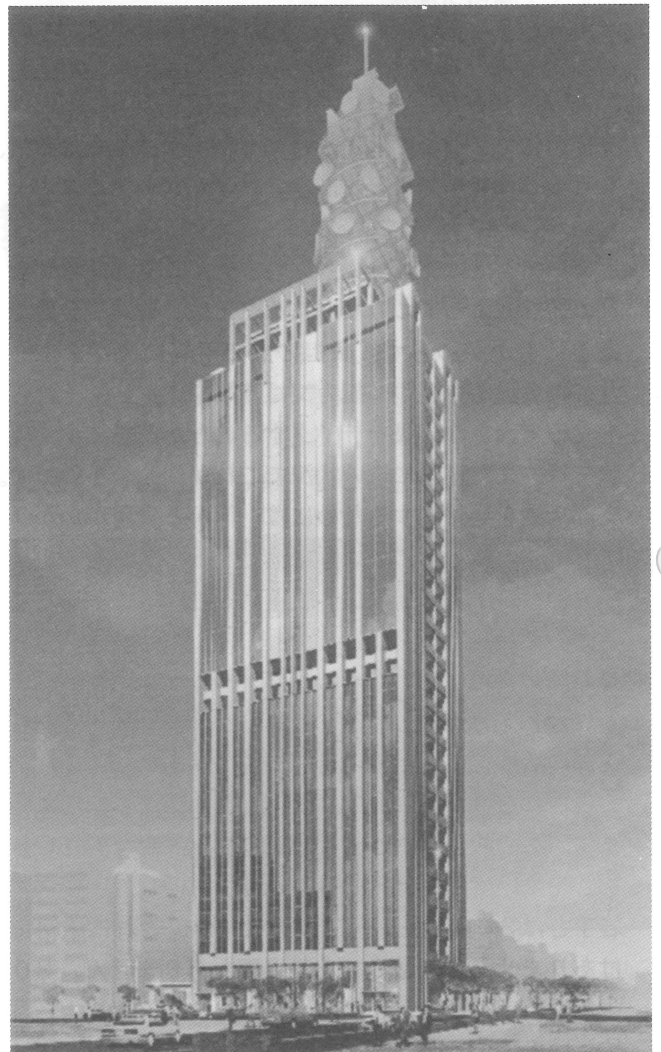
鉄塔は建物コア部の直上に配置され、平面形はGL+121.95mまでが一辺9.6mの正方形、上部は3.2m×9.6mの長方形で構成している。なお、鉄塔は通信用アンテナを搭載するため、合計7段のプラットフォームを有している。

基礎は、敷地地盤の上層部がやや緩い熱田層で構成されることから、GL-32m以深の洪積砂礫層

に支持させる場所打ち鋼管コンクリート拡底杭としている。

4. 制震装置概要

制震装置は、オイルダンパーを建物各階にブレース状に配置している。この装置は建物の層間速度に比例して抵抗力を発揮する特性を有しており、各階に8基(X、Y方向各4基)、建物全体で176基を配置している。この建物では制震装置により5%程度の減衰性能を付与している。



建物外観パース

5. 構造設計概要

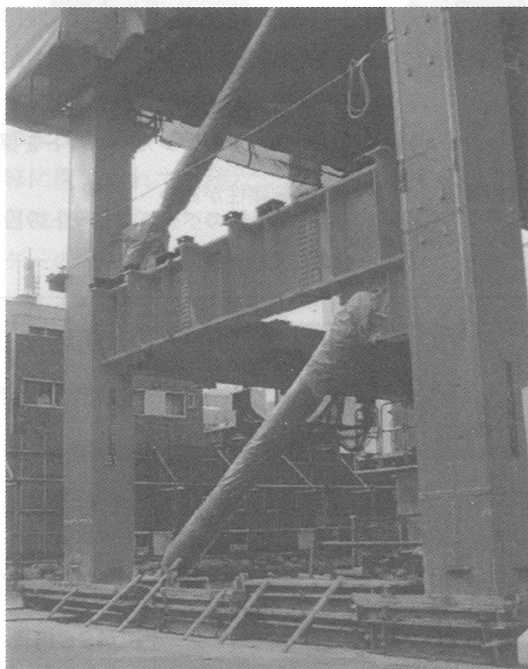
構造設計にあたっては、災害時にも通信機能を確保するため、想定される最大級の地震動および台風に対して主要骨組に損傷を生じさせないことを設計目標とした。つまり、レベル2の地震動(最大速度50cm/s相当)および風荷重(再現期間500年)に対して骨組に生じる応力を弾性限耐力以下とした。

地震動に対しては、当社開発の地震応答解析プログラム「DIAS (Dynamic Inelastic Analysis System)」により、詳細な制震装置モデルを組み込んだ建物-鉄塔達成解析を行った。また、鉄塔が建物の北側に寄った位置に配置されていることおよび制震装置の製品のばらつき等による建物の偏心の影響を考慮した地震応答解析も併せて実施し、安全性を検証している。

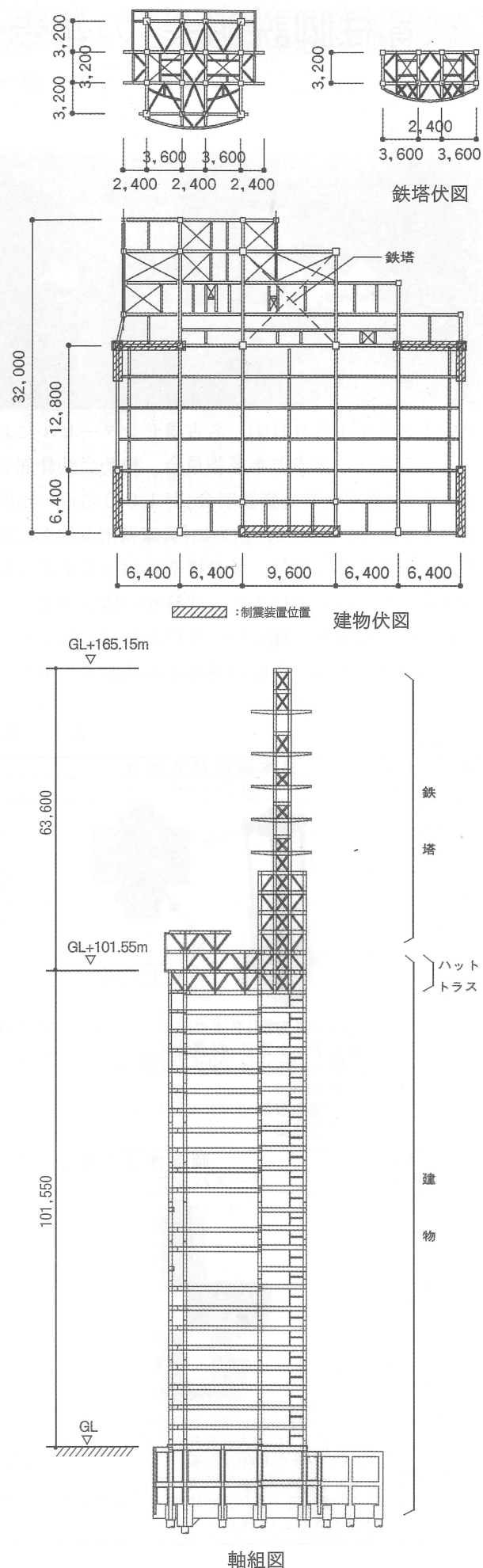
風荷重については、超高層建物の上に鉄塔を搭載するという特異な形態をふまえ、風洞実験による建物、鉄塔のそれぞれの応答にもとづき、双方の振動特性を考慮して設定した。

6. おわりに

この建物は平成11年12月の着工以来、順調に工事が進められている。今後もより高い信頼性と品質の確保に向けて設計監理に取り組んでいく予定である。

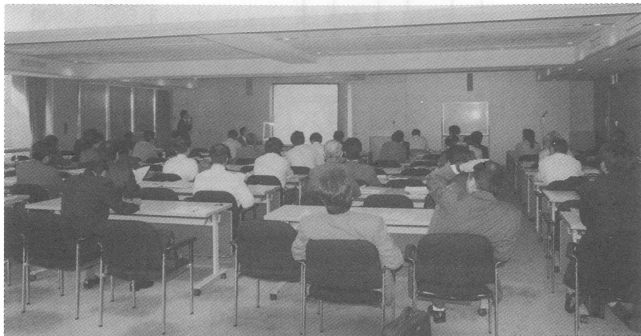


制震装置設置状況



「鉄骨柱脚説明会」の報告

広報委員会 山崎 俊一



平成12年11月9日(木)、名古屋センタービルにおいて、JSCA中部支部事業委員会、賛助会鉄骨部会主催による「鉄骨既製柱脚説明会」が100名近い出席者を得て開催されました。初めに「兵庫県南部地震以降、柱脚の設計法及び施工は、鉄骨構造における重要な検討課題の1つとなっています。建築物の構造規定の中で、露出型、根巻型、埋込型の各種設計法に詳しく記載されていると共に、今回の建築基準法改正の中でも、

アンカーボルトやベースプレート等について明確化されています。本日は、それらのことを踏まえ、特に露出型柱脚について整理した会を開くことにしました。」との趣旨説明が、事業委員会よりありました。

鉄骨既製柱脚は、多数の製品化がされていますが、当日は以下の5社の方から4種類について各種工法の説明が行われました。

1. NCベース 小島 修 (賛助会員)
日本鑄造エンジニアリング事業部建材部
2. ハイベース 伊藤 倫夫 (賛助会員)
日立機材(株)若松工場
3. ベースパック 角屋 治克 (賛助会員)
岡部エンジニアリング(株)構造システム部
河田 泰之 (賛助会員)
旭化成建材(株)ベースパック営業部
4. SB固定柱脚 加藤 孝洋 (賛助会員)
サンベース(株)開発室

当日配布された資料のなかで、それぞれの製品について特徴をまとめたものがありました。今後の参考になるかと思しますので掲載いたします(表1参照)。

表1 既製柱脚比較表

柱脚メーカー 工 法 名 称	日本鑄造株式会社 NCベース	日立機材株式会社 スーパーハイベース	日立機材株式会社 Uボンド
姿 図			
特 徴	①ベース形状: 8本タイプ ②下ナット方式: 耐震性向上 ③耐力バランス: 鋼管~柱脚、ボルト~ナット ④明確な設計法: 耐力、回転剛性、RC柱脚	①降伏比70%以下のアンカーボルト ②コンパクトな柱脚収まりが可能 ③CFT構造への適用が可能 ④偏心タイプを標準化 ⑤標準品外のベースプレートの設計が可能	①U形定着のアンカーボルトを採用 ②根伐りが浅い ③回転剛性が高い ④標準品外のベースプレートの設計が可能
柱脚メーカー 工 法 名 称	岡部株式会社・旭化成株式会社 ベースパック	サンベース株式会社 ベースパックNT	サンベース株式会社 SB固定柱脚工法
姿 図			
特 徴	本工法はアンカーボルトの軸径に対して約15~30ミリの過大孔を有するベースプレートと、グラウト材の流通孔を有する座金によりベースプレート下面と基礎コンクリート上面とを一体化させ柱脚部の固定度を確保する工法で、保有耐力接合を満足する。	大口径角形鋼管(口-750)対応としたベースパックの新シリーズであり、アンカーボルトに9T相当の靱性に富んだ非熱処理高張力鋼を用い、ベースプレートはSN490B相当の鑄鋼製で溶接性等に優れている。工法の性能特徴は左記のベースパックと同様の性能を有している。	埋込み型柱脚で基礎梁がSC構造。工学的にほぼ完全な柱脚固定となり、1階層間変形角の抑制に効果的。SC梁を基礎フーチングとして扱える。

JSCA中部の活動について

事務局 野田 泰正

当支部は東海4県・北陸3県合わせた7県にわたっています。構成は事業企画・運営を担当する事業委員会、広報誌発行・ホームページ担当の広報委員会、当協会の特色である技術委員会(鉄・RC・地盤・木質・計画・設計各部会)、行政側と相互信頼を深め、積極的に協力・活動する行政懇談及び耐震委員会、地理的な環境の違いを踏まえ独自の活動をする北陸、静岡部会と5委員会、2地方部会です。

支部本体の実績は阪神大震災以後耐震診断業務が繁忙です。この面の活動として耐震診断の審査協力、3年間にわたるデータ整理、一般の方々の相談窓口、RC等の簡易診断プログラム作成……と今までの支部長以下の方々の努力が結実しました。構造士更新手続きの採点作業は当支部で行っています。

各委員会状況は木質・計画等の部会は比較的若い会員が多く、活発で実績を伸ばしています。行懇は確認申請時に生じる問題・トラブル解消のため、概要書、解説書の作成に協力。耐震は審査協力多忙。事業は講習会・見学会等に賛助会員の皆さまの協力も得て、その内容は充実したものとなっております。広報HPは実績多々。北陸、静岡の内容の充実は、《支部だより》のとおりです。7県の中間に位置する三重・岐阜両県は昨年末県クラブを結成し、活動を開始です。

このように当支部は、他支部とは比較できない程、活発な活動をし、多くの業績をあげております。問題は上記の活動全てが会員の奉仕であり、若い会員が少ないことは今後改善すべき課題です。

車のエンジンのピストンはシリンダー内をオイルやリング等に保護されて支障なく滑らかに上下運動をしていることはよく知られています。しかし実際ピストンはシリンダーの壁に接触、衝突等しこれを利用しつつ高速回

転し高馬力を出しています。当協会は設立後日も浅く、多くの方の協力に保護され高低速を繰り返すことはなく燃焼は静かです。ただ一瞬間に高速、高馬力の出せないエンジンはパワー不足で若い人や前進指向の人には見向きもされないでしょう。シリンダーは円形であるより多少異形の方が滑らかにピストンは動きます。エンジンの改良は若い会員の参加と活動、多数の方々の意見、提案、叱咤等による加工や処理が必要です。

支部の活動内容は、地理的に参加しがたい方、時間的に不都合な方々には当協会誌ストラクチャ掲載《支部だより》と《JSCA中部》の紙面から読み取っていただくことのみとなり、動きが分かり難いと感じておられる会員の方もいらっしゃると思います。この溝を少しでも埋め、会員に有効な情報を、的確に・早く・広く伝えるため、昨年6月、支部のホームページを開きました。多くの会員の方々にご利用、ご意見を頂き、ホームページの不十分な個所を手直ししていきたいと考えています。事務局からの連絡も経費削減のため、この方式に移行していきます。こうしたやり方ではご不自由となる会員の方もみえると思いますが、極力協力いたしますのでご連絡ください。

私達は制度・組織に束縛され、現状維持に陥りがちですが、より多くの会員が参加して、実務者の立場から指針・基準を理論的のみでなく実状にあった判りやすい方向のものも作り、基準法の主旨と実務との内容に差異をなくしていくのが技術者協会の一つの方向でもあります。特に若い方々の参加を待っています。

哲学者の故森信三先生は「人間には現状維持などない。人間は進歩か退歩かのいずれかで、現状維持と思った時はすでに退歩している証拠……無限の前進に賭けるよう」と。



超軽量PCカーテンウォール

WALL 21

軽量一種PC板に比べて**25%以上軽い**
オープンジョイント工法&クローズジョイント工法

川鉄建材(株) 本 社 TEL 078(232)5884
名古屋 TEL 052(204)5711
(株)川建備前工業 TEL 078(232)5884

技 術 委 員 会 活 動 報 告

技術委員長 桐山 宏之

技術委員会は定例的に開催する委員会と、鉄鋼系、コンクリート系、地盤系、木質系、計画、設計法の6部会から構成されています。委員会では設計例紹介、部会報告を主とした運営を行い、各部会は主査を中心として、各々の分野で主体的に活動しています。

技術委員会は、JSCAの前身である構造家懇談会発足の時から、技術の研鑽は構造設計者の基本と位置付けられ、委員会の活動を活発にすることを目標として運営されてきました。設計例紹介は、他人の設計を通じて個人の設計の幅を広げる最良の手段として今後も継続したいと考えています。

最近、当委員会の活動が不活発であるとの指摘があります。その原因として、情報メディアの発達により

中央の情報が直接入手でき、ローカルの活動に魅力を感じない若い設計者が増えてきたことがあげられます。

建築基準法の改定は、私たちにとって大きなイベントです。私はこの機会を、技術委員会再活性化の確実な足がかりにしたいと思います。新法の柱は、性能設計と、新検証法です。建物の構造的性能を説明することに関し、今まではこれを深く考える機会是比较的少なかったといえますが、これからの設計者には設計説明能力、特に建築主へのそれが強く求められると思います。技術委員会が能力養成の場として少しでも役立つよう努力したいと思います。

各部会については、主査の方々に今後の方針を出していただきました。

鉄鋼系部会 主査 加賀美安男

部会は、偶数月の第1木曜日を定例として開催しています。テーマはその都度持ち寄り、勉強会形式で行っています。

2001年度のテーマとしては、①基準法改正による鉄骨関連事項、②鉄鋼系新材料・新工法について等を予定しています。今後更にメンバーを増やし、テーマと併せて活性化を図っていきたいと考えます。

コンクリート系部会 主査 大野勝由

奇数月に部会を開いております。2001年度の活動計画として以下のテーマを予定しています。

- (1) 建物に使用する、または使用されたコンクリートの性状
- (2) コンクリートのクラックについて
- (3) 誘発目地について
- (4) 雑壁の扱いについて
- (5) パネルジョイントの設計方法について

木質系部会 主査 川角久子

活動計画は以下の通りです。

- (1) 「木の見かた・使い方」というテーマで木や木材を扱っている職業の方の話を聞く。
- (2) 新しい木質建築物の見学会—設計法の講習会や品質管理や組立建方の見学会なども含めて。
- (3) 木材の物性（木材と水とクリープ）についての勉強会。
- (4) 木造建築の構造計算と耐震診断の相談窓口を開設する。

設計法部会 主査 孕石好治

2001年度では以下の活動を予定しています。

(1) 限界耐力設計法

新しい検証法として登場した限界耐力計算法について、情報収集し勉強します。

(2) エネルギー法による検証法

鉄骨造の建物について有効な検証法であると言われているエネルギー法について情報収集し、勉強します。

地盤系部会 主査 河合壮一

2000.12.11(月)にNKKいちいち基礎工法と3次元攪拌地盤改良工法の説明会を実施しました。今年度は当面以下の見学会を予定しています。

免震基礎工法『住友不動産上社シティーハウス』の見学会

日時 2001年 1月31日(水) 15:30-17:00

(詳細はJSCA中部地盤部会ホームページ参照)

今後も見学会や基礎工法の情報収集につとめます。

計画部会 主査 安藤 誠

構造家は本来何を思いながら構造計画を成すべきか。このような問いに答えを出そうとするのが、計画部会の目的のようにも思われます。具体的な活動としては、「新建築」に取り上げられた作品についてディスカッションを重ね、少しでもそれらのエキスを学ぼうと、毎月会合を重ねています。

また、これらを手がけた構造家を名古屋に招いたり、見学会を開催したりと、中部支部の会員の方々にも参加いただける企画を行っております。

事業委員会活動報告

事業委員長 田中 道治

事業委員会では下記のメンバーによって、3ヶ月に2回程度のペースで中部支部の事業活動計画について企画会議を行い活動を実施しています。

委員長：田中 道治（清水建設）
副委員長：伊東 正（竹中工務店）
副委員長：鈴木 勉（石本建築事務所）
委員：谷河 修二（大林組）
山本 享明（富士設計）
大野 勝由（野口建築事務所）
斎藤 正（熊谷組）
森 隆寿（飯島建築事務所）
藤田 良能（三菱商事）

会議場所は、清水、飯島、大林、竹中、石本の各社の会議室を順番にお借りして毎回16:00からという事で慣例化しています。活動の主目的は支部の活性化です。

毎年の主たる活動としては中部支部新年互礼会（1月）、中部支部総会（5月）及び海外研修旅行（2年に1回：西暦奇数年の秋ごろ）などの定例的な企画があります。

その他には、講習会や勉強会等の構造技術研鑽に関するテーマの場合は技術委員会に主催をお願いし、現場見学会や材料及び構法等の説明会など中部支部活性化に関する諸々の企画を事業委員会が主催しています。

2年前からは、上記その他の支部活性化活動に会員だけではなく賛助会員の方々にも参画して頂く事で、より開かれた支部活動となる事を目的として事業委員会の下部組織として賛助会員の組織化（担当事業委員：山本）を行いました。

賛助会は下記の3部会に細分化されていて各部会がそれぞれに企画を行い鉄骨、コンクリート、地盤の順に持ち回りにて企画実施されています。今回は3月頃に第3回目のコンクリート系部会の企画を予定しています。賛助会鉄骨系部会（担当事業委員：伊東、鈴木）

幹 事：寺脇 巖（東海鉄骨工業）

副 幹 事：岩井 章（三星工業）
副 幹 事：中村 次男（瀧上工業） 他21社
賛助会コンクリート系部会（担当事業委員：谷河、大野）
幹 事：大石 昇（オリエンタル建設）
副 幹 事：花田 安弘（エフ・ピー・ケー） 他9社
賛助会地盤系部会（担当事業委員：田中、森）
幹 事：保田 信吾（東洋テクノ）
副 幹 事：前原 勝明（旭化成建材） 他15社
その他の賛助会7社

もう一つの支部活性化の活動として、賛助会と同じ時期から（仮称）若手部会の組織化（担当事業委員：森）を行っています。活動の中心となる会員年齢が年代の移り変わりにもとない高年齢化しているのは支部も本部も同様です。うまく世代交代していく為にも、もっともっと多くの若手（40歳未満を対象としています。）が入会し支部活動に積極的に参加して頂くよう苦慮しているのが支部事業委員会の現状です。

（仮称）若手部会の組織化は今年になってようやく組織化らしきものが見え始めています。名称も「WG21」と改称し、愛知県との行政懇談会（中部支部では年4回実施）ではJSCA中部側としての意見抽出に活躍してもらっています。「WG21」に賛同して頂きミーティングに集まって頂けるのは10余名程度とまだまだ一部の方々にとどまっていますが、今後は参加される方々をもっと増やし、将来のJSCA中部が会員それぞれの方々に対して意義ある協会であるよう改善して行かなければならないと考えています。

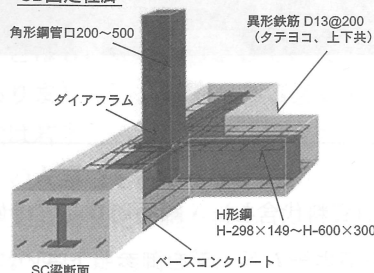
最後に、事業委員すべてのメンバーがボランティアである事を考えれば委員数がもう少し増えてほしいと思っています。今後の支部事業はこうあって欲しいと思われる有志の方ならばいつでもメンバーに加わって頂き、共に活動していこうではありませんか。事務局又は事業委員までのご連絡をお待ちしています。

SB 固定柱脚工法

建設大臣認定 建設省静住指発第27号

簡易な施工、安全な構造！

SB固定柱脚



※SB 固定柱脚工法はサンベース株式会社の特許工法です。

- 基礎梁鉄筋、アンカーボルト不要の鉄骨造用埋込み型柱脚工法です。
- 柱脚耐力が内蔵H形鋼サイズ毎に予め定められています。
- 1階柱の全塑性モーメントに対して1.3倍以上の終局耐力を有する柱脚を組み合わせます。
- 1階層間変形角抑制に効果的です。
- SC梁を連続フーチング基礎として利用可能です。
- 基礎梁鉄筋工事、アンカーボルト据付け工事が不要のため、工期が大幅に短縮されます。
- 施工精度が良好です。

サンベース株式会社

URL <http://www.sanbase.co.jp>

□本 社／〒422-8035 静岡県静岡市宮竹1丁目14-20

□東京 支店／〒101-0047 東京都千代田区神田3-10-9（愛和ビル1F）

□名古屋支店／〒465-0093 愛知県名古屋市中区一丁目46（エトワール一社1F）

□九州 支店／〒861-3103 熊本県上益城郡嘉島町井寺225-7

TEL(054)237-1190 代 FAX(054)237-9355

TEL(03)3252-3151 代 FAX(03)3252-3159

TEL(052)705-4550 代 FAX(052)705-4376

TEL(096)235-6870 代 FAX(096)235-6871

三 重 部 会 活 動 報 告

三重担当 門脇 哲也

現在、三重県下では17社17名の方がJSCAに入会しています。以前から、三重県でもJSCAとしての活動をもっと活発に行ったらどうかという声があり、私自身もJSCA中部支部の三重地区担当者として何とかしたいと考えていました。そんな時期にたまたま津で設計事務所を経営していらっしゃる田端氏とある講習会でお会いし、相談をもちかけました。田端氏も同様の考えをお持ちで、それならということで一度三重県下在勤の方に声をかけ、会合を開くことになりました(平成12年10月21日開催…出席者9名*JSCA中部支部事務局の野田氏にも特別参加していただきました)。

その会合で、お互い自己紹介し、JSCA入会の動機等雑談から始まり、それでは今後どのように活動していくのかを話し合いました[JSCA三重部会としての活動：会員の増強：各講習会による自己啓発等]。

三重県は地形的に縦に長く全員が出席ということはいさぐさ期待できないという状況で、今回初めて知り合った人も多く、いきなり役員選出は困難ではないかという意見が出されました。始めの1年程度は、中部支部との連絡係を(株)田端隆建築設計の田端氏、(株)仁設計室の門脇両名が行い、できる限り定期的に会合をしてJSCA三重部会をたちあげて行こうということで合意しました。

なお、三重大学工学部建築学科教授の森野捷輔先生に特別顧問になっていただき、三重部会活動についてご指導していただくことになっています。

JSCA中部支部三重部会は、やっとスタートラインに立ちました。今後、この会が活発に活動できますよう、三重県下の会員の方はもとより中部支部の方々のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、三重部会の近況を報告させていただきました。

岐 阜 部 会 活 動 報 告

岐阜担当 多田 昌司

第1回目の岐阜地区の会員の総会が11月22日に親睦会をかねて岐阜市内で開催されました。あいにく当日直前にキャンセルが相次ぎ、参加できたのは7人という少々さびしい会でしたが、県下すみずみから会員の出席がありました。

当日の会では、

- ・ 今後はインターネット、FAXなどの通信をできる限り利用して、お互いの連絡を取り合う。
- ・ 年に一度ぐらいは集まって話し合いの場を設けたい。
- ・ 岐阜市内にすでに構造設計者の会があるので、それと合同で会を開けないか検討する。

などの意見が出されました。後半は各自が日ごろの構造の仕事でかかえる疑問、問題について語り合う会と

なり、遅くまで議論が白熱しました。とかく疎遠になりがちな構造設計者同士の横のつながりの必要性を考えさせられる会でもありました。



講習会のご案内

- ・ 題目：木造住宅耐震診断講習会
- ・ 日時：2001年3月21日(木) 10:00~16:00
- ・ 会場：名古屋市公会堂

- ・ 参加費：8000円(資料代含む) ・ 締め切り 2/16(金)
- ・ 詳細はJSCA中部ホームページを御参照下さい。

<http://www.jsca-chubu.com>